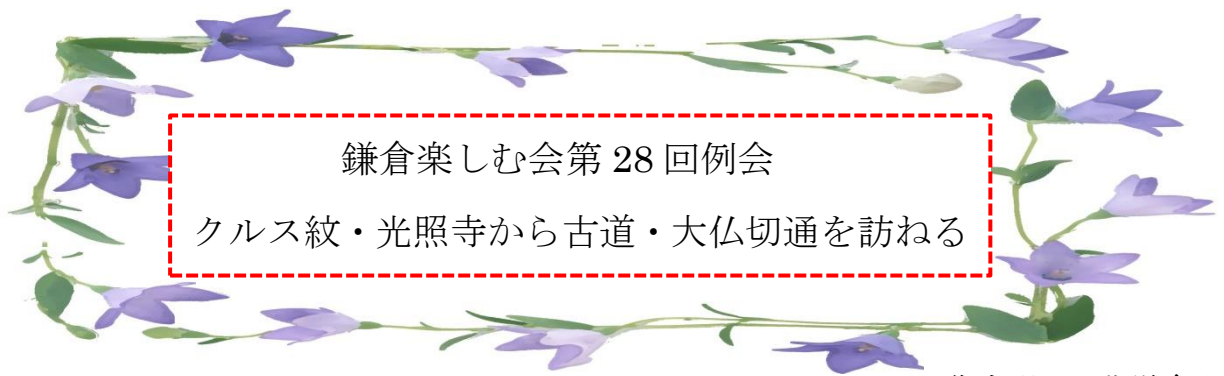




集合場所：北鎌倉駅西口

① 光照寺

- ・時宗（じしゅう）：藤沢山清浄光寺（遊行寺）末。山号は西台山。鎌倉時代の弘安 5 年（1282）に、一遍上人一行が鎌倉入りを拒まれ、一時留まった所です。
- ・山門の欄間にはクルス紋（キリスト教の十字紋）が掲げてあり珍しい。寺には、江戸幕府からの「隠れキリシタン」に対する文書の記録も残っているという。また、他に隠れキリシタンの燭台二基が伝わるが、伝来の詳細は不明とのこと。
- ・山門脇に子育て地蔵、その向かいにお年寄りや子供の咳が止まるというご利益のある、咳の神様「おしゃぶき」の石の祠がある。
- ・（江戸時代の話）

光照寺に近い小袋谷村に住むヒラリオ孫右衛門とその妻は隠れキリシタンで、編笠で顔を隠し武士に変装したスペイン人のガルヴェス神父が、ひそかに訪れた折に、幕府役人に見破られ共に捕らえられて、ガルヴェス神父、孫右衛門らは元和 9 年（1623）10 月に江戸札ノ辻刑場で火刑に処せられた。

その刑場跡は、現在は港区三田 3-7-8 の公園に「元和キリシタン遺跡」として、その碑があります。



② おちゃぶき小路



- ・光照寺から北鎌倉駅の正面山ノ内交番まで、くねくねと曲折が激しく道幅の狭い小路で、土居に囲まれた屋敷や風雅な竹垣、生垣の家が続く。ゆったりとたわむ小路の曲線が心地好い。

③ 東慶寺



- ・臨済宗円覚寺派。山号は松岡山（しょうこうさん）。“縁切寺”“駆け込み寺”の名で広く知られた。かつては尼寺として栄え明治 4 年（1871）に「縁切寺法」が廃止されるまでの約 600 年間、多くの女性を救った。
- ・開山の覚山尼は北条時宗の妻。後醍醐天皇の皇女の五世・用堂尼以来栄え、高い寺格を誇った。
- ・二十世天秀尼は豊臣秀頼の娘で、徳

川家康の孫娘「千姫」の養女でもあったため、江戸時代には徳川家の厚い庇護を受けた。

- ・境内の松が岡宝蔵で、木造聖観音菩薩立像（国重文）、室町時代の香炉・初音蒔絵火取母（はつねまきえひとりも）（国重文）。キリシタン遺物である葡萄蒔絵螺鈿聖餅箱（ブドウマキエラデンセイヘイバコ）（国重文）などが展示されている。

④ 浄智寺



- ・鎌倉五山の第四位。臨済宗円覚寺派。山号は金宝山。
- ・五代執権北条時頼の三男・宗政の菩提を弔うため弘安 4 年（1281）宗政の子で十代執権の師時が創建。室町時代の延文元年（1356）の火災により、当初の伽藍は焼失したが、また、方丈、書院、法堂など主要な建物や多くの塔頭を再建した。しかし、江戸時代になると、勢力を失い、伽藍も小規模になった。
- ・大正 12 年（1923）の関東大震災で

は、殆ど倒壊したが、その後徐々に再建された。周囲は緑に囲まれ、昔ながらの広大な寺域は今も残り、国の史跡として保護されている。

- ・総門近くにある「甘露の井」は鎌倉十井の一つ。二階に花頭窓のある唐様の鐘楼門は鎌倉唯一。本堂・曇華殿（ドンゲデン）に安置されているのはそれぞれ過去、現在、未来を意味する阿弥陀、釈迦、弥勒の木造三世仏坐像（室町時代）は県の重要文化財に指定されている。

⑤ 葛原岡ハイキングコース



- ・天柱峰碑と多宝塔がある。浄智寺の住持を務めた「竺仙梵僊」が命名した。
- ・ハイキングコースは距離は短いですが、木の根が這う歩きにくい場所や急坂もあるので足下はしっかり注意していこう！

⑥ 葛原岡神社



- ・由比ガ浜の鎮守。明治 20 年（1887）文章博士の日野俊基公をご祭神に創建された。
- ・日野俊基公は「建武の中興」への道を開かれたことから「開運の神様」、また文章博士として優れた能力を発揮されたことから「学問の神様」として今日広く全国各地より篤く崇敬されています。

（葛原岡神社 HP より）

*建武の中興*とは・・・元弘 3 年（1333）、後醍醐天皇が鎌倉幕府を倒して京都に還幸し、天皇の親政を復活させ、翌年「建武」と改元して公家一統の政治を図ったが、足利尊氏の離反により、2 年半で崩壊。天皇は吉野に移って南北朝時代となる。

⑦ こもれび広場



【 昼食 】

⑧ 日野俊基卿碑



- ・公家の日野俊基は後醍醐天皇に仕えた朝臣。討幕計画に参加し京都で捕らえられ、一度は赦された。しかし、再び討幕を企て鎌倉に護送され、元弘 2 年（1332）葛原ヶ岡で斬首された。
- ・俊基卿の墓とされる宝篋印塔があり、国史跡に指定されている。
- ・俊基卿が処刑される直前、家来の後藤助光が対面し、妻からの手紙を渡した話が「太平記」にある。俊基卿は「秋をまたで葛原岡に消ゆる身の露のうらみや世に残るらん」と詠んで死についたという。

⑨ 大仏ハイキングコース



・古道の大仏切通へ向かう少し険しい尾根道を踏みしめ、歴史が奏でる音が聞こえてきそうな椎の木立を抜けると周囲は明るくなり、鎌倉の市街から遠くに相模湾の碧さが目に飛び込んでまいります。また、雑木林や篠竹が道の際まで迫り、樹々の囁きと、野鳥のさえずりに癒されながら、木の根が階段状になった急な上り坂や下り坂のある楽しくも険しいハイキングコース。

・ハイキングコース中ほどに、左の写真のような「樹ガーデン」の案内板があります。マスコミにも取り上げられる人気のカフェです。時間を取りお洒落なテアタイムも良いと思います。



⑩ 大仏切通



・神々の棲む山、木洩れ日のなかの古道としての風格のある「大仏切通」。国指定史跡となっています。

・いつごろ開かれたのか記録には残っていないようですが、鎌倉の歴史書「吾嬬鏡」には歴仁（リャクジン）元年（1238）三月に大仏の安置堂の事始めが記され、関連して深沢の里も記されていることから、現在の常盤・梶原・笛田辺りから長谷へ大仏切通は通じていたと思われる。

・古来七切通しの中でも最も険

しい道とされ、江戸時代にも藤澤宿から鎌倉に入る道として、よく利用されたというのが困難を極めたといわれる。

・明治12年（1879）五月から翌年にかけて地元有志の資金で五町（約550m）の区間を三丈（約9m）切り下げて勾配をゆるやかにして、人力車の通行を可能にしたという。

・切通し、置石の部分は三箇所あって人力で崖を削って造ったという約800年前の厳しい環境であったことが、少しは実感できるような気がします。



かまくらや
御仏なれど
釈迦牟尼は
美男におはす
夏木立かな

* 《ミニ百科》・・・6世紀中頃に百済より伝来した仏教を奈良時代に国教とする際に、日本固有の神道と整合性を図る必要が生じた。そこで仏教の菩薩号を神名につけ八幡大菩薩と唱えるなど神仏の融合・調整を図ったのが、これを「神仏習合」という。

* しかし、明治元年（1868）、維新政府は王政復古と祭政一致の政策を確立するため神仏分離令を發布し、神仏習合の時代は終わった。